

3り光

No.159 2022. 9

発行 真言宗豊山派
北田山寶泉寺
所沢市北岩岡130
編集 色摩真了
ホームページアドレス
takaranoizumi.com



牧師さん&お坊さんに聞いてみよう!! ザクバラトーク



先日、和光市にお店を構えるアルコイリスカフェを会場に「ザクバラトーク」と題された座談会に登壇してきました。

この集まりは、牧師さんとお坊さんに対し疑問に思っていることを何でも聞いてみようという企画で「どうしたら牧師さんやお坊さんに成れる?」「どんな生活をしている?」「悩みや葛藤はある?」「宗教で救われた体験はある?」「伝統宗教とそうでない宗教の違いは?」「なぜ宗教戦争は起きる?」などなど、正にざっくばらんな質問に答える形で4時間たっぷりお話ししてきました。

私自身、今回の企画に際し改めて多くのことを学び直し、また考えました。宗教は今を生きる私たち一人一人の幸福のために存在します。ですから、宗教は、宗教同士はもちろん、人種や世代や国や地域などの境界を超えることができる。

一方、宗教は決して人生の全てではない。全てにしてはいけません。私たちを支える一つの要素である。こともこの座談会を通じて強く感じました。

ご一緒した山下真実（まこと）さんは埼玉県富士見市で教会を任されている牧師さんです。共感できるお考えを沢山お持ちのとても誠実な方で、いつか寶泉寺にも来てもらおうかなと考えています。



法話カフェ



のお誘い



今年の1月に始まった「法話カフェ」。毎回10名前後の方が集まり、コーヒーやお茶を片手に楽しく過ごしています。

対話形式の法話会ですが、言葉にするのが苦手な方は無理にお話しする必要はありません。どうぞお気軽に遊びにきてください。

そうそう、ご夫婦で参加されている方もいらっしゃいます。ご夫婦、お友達等複数名でのご参加も大歓迎です。

★法話カフェ今年の予定(いずれも13時30分より)

9月25日(土) 10月29日(日) 11月27日(日) 12月18日(日)

参加者のお一人に感想をちょうだいしましたのでご紹介します。

寶泉寺にて開催されている「法話カフェ」は、一般的な法話会のように大勢でお坊さんのお話を一方的に聴いて終わりというのではなく、法話の内容について参加者がどう思ったかなどを話し合う、参加型のイベントになっています。

具体的には、その日のテーマについて、まず住職のお話があり、その内容について各自で考える時間を経た後、参加者がそれぞれの意見を出し、話し合うといった感じです。(話し合う、といっても堅苦しいものではなく、時には脱線しながら考えたことを発表するのが基本です。)

ただお話を聴くだけでなく、そのことについて自分で考え、その自分が考えた内容を相手に話すことによって、テーマについての理解をより深めることができます。

また、他の方々の考えを聴くことにより、自分では思いもしなかった解釈に出会ったり、斬新なものの見方に触れることができます。

仏教に興味はあるけど、なんだか難しそうだなあと考えている方。仏教はよくわからないけど、考えることやその考えを話すことが好きな方。軽い気持ちで参加しても大丈夫です。私もそうでしたから。(Hさん)

檀信徒のおつとめを読む④



4.三竟（さんきょう p5）

前回の「三帰」は仏（仏さま）法（仏さまの教え）僧（仏道に集う仲間たち）の三宝を大切にしますという宣言でした。この「三竟」は、それを途中でやめることはしません。という不退転（信念をもち退かないこと）の誓いです。

「竟」は「終わる」の意ですが、終わらせることではなく「終わりまで、最後まで」と解釈します。「三帰」の念をより強く表現したお経といえるかもしれませんね。

三竟
でしむこう
弟子某甲
きえぶつぎよう
きえぼつぎよう
きえそうぎよう
尽未来際
じんみらいさい
帰依し竟る（おわる）。

団体参拝日程が決まりました

団体参拝の日程が来年、令和5年の5月10日（水）～12日（金）の2泊3日に決まりました。今回は初めて興教大師覚鑿さんの開いた根来寺にお参りする予定です。正式なお申し込みはまた後ほど。新緑の長谷寺を楽しみましょう。



エアコン工事が始まります

かねてより計画のあった本堂のエアコン設置と、るり洞（本堂地下）エアコン入替の工事がこの秋のお彼岸後にスタートします。工事中はどうぞお気をつけてお参りください。

本年も檀信徒皆さんの参列が叶わなかったお施餓鬼と大般若転読会ですが、来年は快適な空間で開催することができそうです。

老僧のつぼやき ⑮

夏が終わると季節の変化が一気にすすみ、元気だったわずかな小僧(しょうそう)の畑の夏野菜は生気を失ってしまいました。日も短くなり太陽の恵みの大きさを感じる季節でもあります。

まもなくお彼岸。春分、秋分の日的前後一週間は彼岸会として大事な仏教週間でもあります。しかし元々彼岸は仏教教理では大事な教えではあるのですが法会、あるいは行事としては無かったものでした。お彼岸は仏教伝来後、幾多の変遷を経て日本で始まったものです。日本にはそれぞれ特徴的な四季があり、日照、雨量ともに多く自然の恩恵をうけて動植物もゆたか、まさに瑞穂の国です。国民には四季を通して日の恵みを望み願う「日願」という観念、習俗があったと言われます。日願を彼岸にかけて、習俗が仏教教理とうまく醸成されて「お彼岸」を生み出し今に至るわけです。

ところで我が40年来の菜園、そばの建物の陰になり特にこれからは日照不足でまさに日願、仏教者の一人としてはいつも彼岸を意識しながら作業にいそしんでいます。

話は変わりますが、今では家庭菜園でもビニールマルチは当たり前、小僧も一部に使っています。そのマルチを作物によっては2度使いをしています。エコでかつ省力化が実現、ずぼら菜園ともいえるのですが、最近「YouTube」で同じ農法を発見し、同じ考えの人がいたものと驚きでした。すでに実践という方もあろうかと思いますが家庭菜園にお試しあれ。

編集後記

- ・ 牧師さんとの対談で、「カルトは宗教ではなく、宗教などの皮をかぶった反社会活動である。」という結論に達する。伝統宗教は、長い年月を経て洗練され、社会と適合してきたところが伝統と成りえた所以とも。
- ・ 9月10日は中秋の名月だった。月というと良寛さんの「盗人に取り残されし窓の月」を思い出す。色々と解釈できる句だが、興味のある方はお調べください。(真了)
- ・ 旧統一教会。40年ぐらい前のこと、ある宗教に入って壺を買ってしまったがどうしようという相談があった。「はっきりと退会、返金の意思を伝えること」と伝えた、後に高い授業料を払ったつもりであきらめたといってきた。以来何の連絡も無いがどうなったか気になる場所である。

(真琴) Sep. 13, 2022